

# 宮崎県感染症週報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

## 宮崎県第34週の発生動向

### □ 全数報告の感染症 (34 週までに新たに届出のあったもの)

1 類感染症：報告なし。2 類感染症：結核 7 例。3 類感染症：報告なし。4 類感染症：報告なし。  
5 類感染症：急性脳炎 1 例、梅毒 1 例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
2類	結核	宮崎市	0~4歳	男	無症状病原体保有者	-
			0~4歳	男	無症状病原体保有者	-
			60歳代	女	肺結核	症状なし
			60歳代	男	疑似症患者	呼吸困難
		都城	80歳代	男	無症状病原体保有者	-
			70歳代	女	無症状病原体保有者	-
		高鍋	90歳代	男	肺結核	発熱、食欲低下
5類	急性脳炎	宮崎市	0~4歳	男	病原体不明	発熱、痙攣、意識障害
	梅毒	宮崎市	30歳代	女	無症状病原体保有者	-

### □ 定点把握の対象となる5類感染症

・定点医療機関からの報告総数は609人(定点当たり19.4)で、前週比105%と増加した。前週に比べ増加した主な疾患はRSウイルス感染症と感染性胃腸炎で、減少した主な疾患は流行性耳下腺炎と手足口病であった。

#### ★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

##### 【RSウイルス感染症】

報告数は65人(1.8)で、前週比191%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値\*(2.0)の約0.9倍であった。延岡(5.8)、日向(4.3)保健所からの報告が多く、年齢別は1歳以下が全体の8割を占めた。

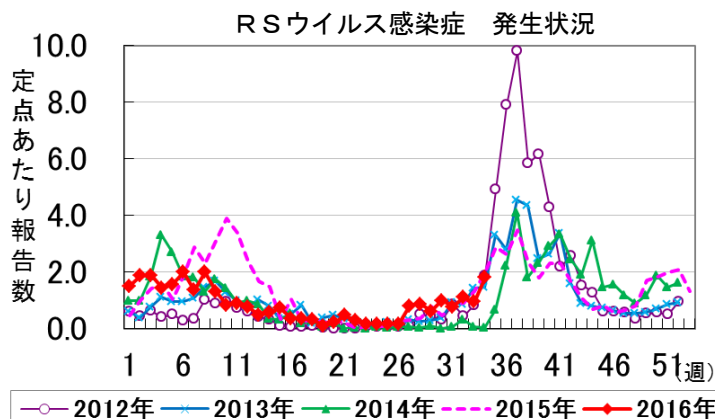
##### 【流行性耳下腺炎】

報告数は65人(1.8)で、前週比74%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値\*(0.74)の約2.4倍であった。高千穂(9.0)、小林(7.0)、延岡、日向(各2.0)保健所からの報告が多く、年齢別は3~4歳が全体の4割を占めた。

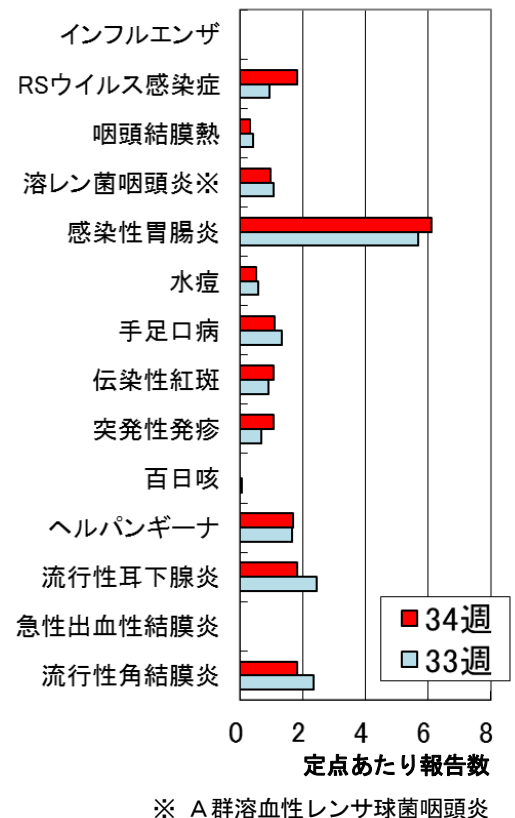
##### 【伝染性紅斑】

報告数は38人(1.1)で、前週比115%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値\*(0.30)の約3.7倍であった。小林(3.0)、高鍋(2.3)、日向(2.0)保健所からの報告が多く、年齢別は3~5歳が全体の半数を占めた。

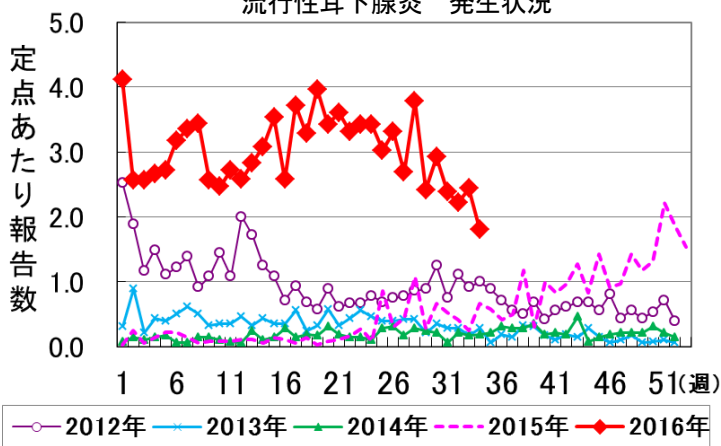
\* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均値



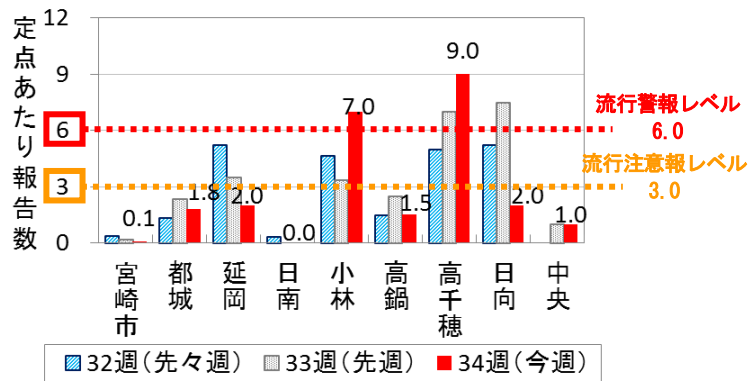
### 《前週との比較》



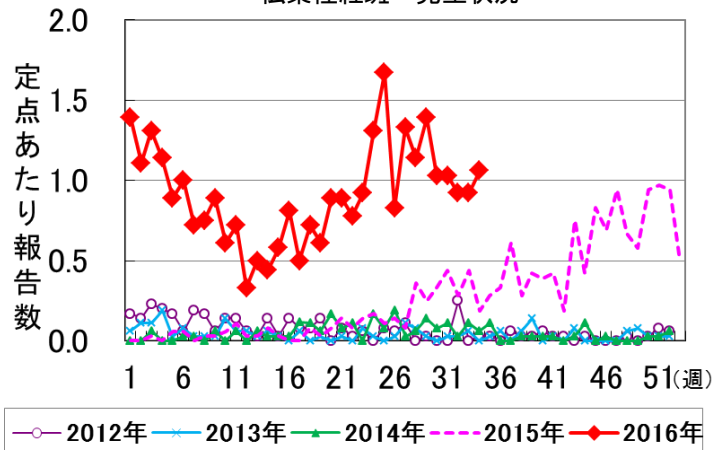
流行性耳下腺炎 発生状況



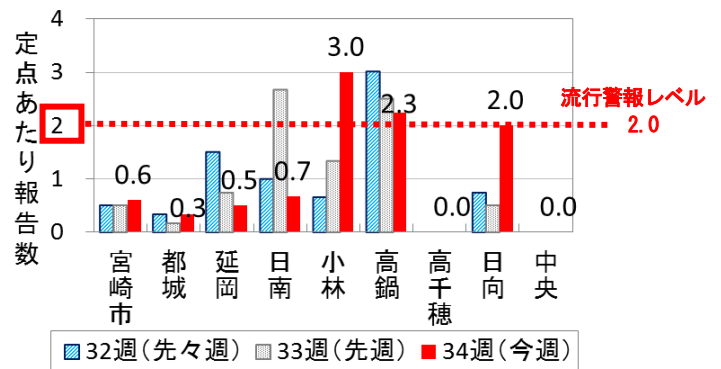
流行性耳下腺炎 保健所別推移 (3週分)



伝染性紅斑 発生状況



伝染性紅斑 保健所別推移 (3週分)



★基幹定点からの報告★

○マイコプラズマ肺炎：宮崎市(6例)、延岡、日向(各1例)保健所から報告があった。0～4歳が5例、5～9歳が2例、10歳代が1例であった。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	なし
都城	なし
延岡	なし
日南	なし
小林	伝染性紅斑(3.0),流行性耳下腺炎(7.0)
高鍋	伝染性紅斑(2.3)
高千穂	流行性耳下腺炎(9.0)
日向	伝染性紅斑(2.0)
中央	咽頭結膜熱(3.0)

\* 流行警報レベル開始基準値\*

- ・咽頭結膜熱(3.0)
- ・伝染性紅斑(2.0)
- ・流行性耳下腺炎(6.0)

□病原体検出情報 (衛生環境研究所微生物部 平成28年8月29日までに検出)

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
<i>Staphylococcus aureus</i> (エンテロトキシンC型、TSST-1+)	0～4歳	男	2016.8.13	発熱(38.3℃)、紅斑	鼻汁	2016.8.16
<i>Salmonella</i> Bareilly(O7:y:1,5)	10歳代	男	2016.8.19	—	便	2016.8.26
<i>Salmonella</i> Infantis(O7:r:1,5)	20歳代	男	2016.8.19	—	便	2016.8.26
<i>Salmonella</i> Infantis(O7:r:1,5)	0～4歳	女	2016.8.20	—	便	2016.8.26

○発熱、紅斑の症状を呈した男児から *Staphylococcus aureus* (エンテロトキシンC型 TSST-1 遺伝子陽性) が検出された。黄色ブドウ球菌が産生する毒素には耐熱性の外毒素 (エンテロトキシンA～E) が知られているが、食中毒患者から分離される株の多くがエンテロトキシンA型、B型である。一方、急性全身性感染症の原因毒素、TSST-1 産生株はエンテロトキシンC型を産生するものが多く、今回分離された菌株もエンテロトキシンC型であった。

## ★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取日	臨床症状	材料	検出日
パレコウイルス3型	0～4歳	男	2016.06.22	ウイルス感染症、40.2℃、易刺激性	咽頭ぬぐい液 髄液	2016.08.25
パレコウイルス3型	0～4歳	男	2016.06.24	新生児発熱、39.0℃	便 咽頭ぬぐい液 髄液	2016.08.25
エコーウイルス25型	5～9歳	女	2016.07.19	39.0℃、頭痛、白血球の減少	鼻汁	2016.08.18
コクサッキーウイルスB5型	0～4歳	女	2016.07.21	集団かぜ、39.9℃、気管支炎	咽頭ぬぐい液	2016.08.18
パラインフルエンザウイルス3型(再掲)	0～4歳	女	2016.07.21	集団かぜ、39.9℃、気管支炎	咽頭ぬぐい液	2016.07.28
コクサッキーウイルスB5型	0～4歳	男	2016.07.27	急性呼吸不全、急性肺炎、37.7℃、下気道炎(肺炎)	咽頭ぬぐい液	2016.08.22

○新生児1名、乳児1名からパレコウイルス3型が検出された。パレコウイルス感染症は比較的軽症の胃腸炎、上気道炎の原因となることが知られており、学童期のパレコウイルス抗体保有率は80%を超えるという報告がある。幼児では重症例の報告がほとんどないのに対し、生後3ヶ月未満の乳児がパレコウイルスに感染すると、敗血症や脳炎を呈し、重症化する傾向が強いという特徴がある。当所では今年に入ってパレコウイルス3型が18名から検出されており、うち6名は生後3ヶ月未満の乳児である。

○乳児1名、幼児1名からコクサッキーウイルスB5型が分離された。

## 🇯🇵 全国 2016 年第 33 週の発生動向

### □ 全数報告の感染症（全国第33週）

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	345 例				
3類感染症	細菌性赤痢	5 例	腸管出血性大腸菌感染症	238 例	腸チフス	1 例
	パラチフス	1 例				
4類感染症	E型肝炎	6 例	デング熱	9 例	日本紅斑熱	7 例
	マラリア	1 例	レジオネラ症	21 例	レプトスピラ症	3 例
5類感染症	アメーバ赤痢	22 例	ウイルス性肝炎	2 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	20 例
	急性脳炎	7 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	3 例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	8 例
	後天性免疫不全症候群	18 例	ジアルジア症	1 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1 例
	侵襲性肺炎球菌感染症	26 例	水痘（入院例）	4 例	梅毒	47 例
	播種性クリプトコックス症	2 例	破傷風	1 例	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2 例
	麻しん	13 例				

### □ 定点把握の対象となる5類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 92%と減少した。前週と比較して増加した主な疾患は感染性胃腸炎と流行性角結膜炎であった。減少した主な疾患は手足口病とヘルパンギーナであった。

流行性耳下腺炎の報告数は 3,347 人(1.1)で前週比 104%とほぼ横ばいであった。例年同時期の定点当たり平均値\*(0.43)の約 2.5 倍であった。和歌山県(2.9)、新潟県(2.7)、熊本県、宮崎県(各 2.4)からの報告が多く、年齢別では 4～6 歳が全体の約 4 割を占めた。

流行性角結膜炎の報告数は 535 人(0.79)で前週比 127%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値\*(0.72)の約 1.2 倍であった。長崎県(3.4)、愛媛県(2.4)、宮崎県(2.3)からの報告が多く、年齢別では 10 歳未満が全体の約 3 割を占めた。

\* 過去 5 年間の当該週、前週、後週（計 15 週）の平均値

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2016年 第34週(8月22日～8月28日)

疾病名		第33週	第34週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	34	65	12	6	23	3		3		17	1
	定点あたり	0.94	1.81	1.20	1.00	5.75	1.00	0.00	0.75	0.00	4.25	1.00
咽頭結膜熱	報告数	15	11	2		3			2		1	3
	定点あたり	0.42	0.31	0.20	0.00	0.75	0.00	0.00	0.50	0.00	0.25	3.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	38	35	8	8	7	3	2	6		1	
	定点あたり	1.06	0.97	0.80	1.33	1.75	1.00	0.67	1.50	0.00	0.25	0.00
感染性胃腸炎	報告数	205	220	46	52	1	25	37	18	8	29	4
	定点あたり	5.69	6.11	4.60	8.67	0.25	8.33	12.33	4.50	8.00	7.25	4.00
水痘	報告数	21	18	3	4	4	2		2		2	1
	定点あたり	0.58	0.50	0.30	0.67	1.00	0.67	0.00	0.50	0.00	0.50	1.00
手足口病	報告数	48	39	15	4	5	1				10	4
	定点あたり	1.33	1.08	1.50	0.67	1.25	0.33	0.00	0.00	0.00	2.50	4.00
伝染性紅斑	報告数	33	38	6	2	2	2	9	9		8	
	定点あたり	0.92	1.06	0.60	0.33	0.50	0.67	3.00	2.25	0.00	2.00	0.00
突発性発しん	報告数	24	38	11	10	3	2	3	5		4	
	定点あたり	0.67	1.06	1.10	1.67	0.75	0.67	1.00	1.25	0.00	1.00	0.00
百日咳	報告数	2										
	定点あたり	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	59	61	6	8	13	10		4	1	18	1
	定点あたり	1.64	1.69	0.60	1.33	3.25	3.33	0.00	1.00	1.00	4.50	1.00
流行性耳下腺炎	報告数	88	65	1	11	8		21	6	9	8	1
	定点あたり	2.44	1.81	0.10	1.83	2.00	0.00	7.00	1.50	9.00	2.00	1.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	14	11	10	1							
	定点あたり	2.33	1.83	3.33	0.50	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ 肺炎	報告数	3	8	6		1					1	
	定点あたり	0.43	1.14	6.00	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00		1.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数  
下段:定点あたり報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2016年第1週～34週)

2類感染症	結核	138例(7)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	10例				
4類感染症	E型肝炎	2例	A型肝炎	3例	重症熱性血小板減少症候群	6例
	つつが虫病	6例	日本紅斑熱	3例	レジオネラ症	1例
5類感染症	アメーバ赤痢	11例	ウイルス性肝炎	2例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	3例
	急性脳炎	9例(1)	クロイツフェルト・ヤコブ病	1例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1例
	後天性免疫不全症候群	4例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3例	侵襲性肺炎球菌感染症	5例
	水痘(入院例)	1例	梅毒	6例(1)	播種性クリプトコックス症	3例
	破傷風	1例				

( )内は今週届出分、再掲